木場小だより

令和５年　７月　６日

小松市立木場小学校
校長　小山貴子

TEL：0761－44－2803
FAX：0761－44－5974
kiba-e@kec.hakusan.ed.jp

教育目標：豊かな心と確かな学力を備えた、
心身ともにたくましい児童を育成する。
http://www.hakusan.ed.jp/~kiba-e/

モリアオガエルの卵塊観察

４日、４年生が星の城プロジェクトのみなさんとモリアオガエルの卵塊の観察をしました。例年、６月中旬から７月上旬に産卵をするそうですが、すでにオタマジャクシになって水の中に落ちたものもあり、この日子ども達が見つけた卵塊は６，７個でした。１つの卵塊には１５０個くらいの卵がありますが、その中で大人のモリアオガエルになれるのはほんの数匹です。それを聞くと「なぜ、大人になれるモリアオガエルは少ないのか」と疑問がわくのが木場っ子の素敵なところです。学校のすぐそばに観察できる場所があることを本当にありがたく思います。

木場っ子漢字・計算検定

学期末が近づき、今学期の学習の成果を確かめるための「木場っ子漢字・計算検定」を行いました。計算は６月２９日、漢字は７月４日、シーンと静かな教室には、真剣に取り組む子ども達の姿がありました。家庭学習週間の成果は出たでしょうか。この後校長室で、満点になった人には表彰式があります。今回からは、１回目で合格した子の賞状にはシールが貼られることになりました。自分なりの目標を持って、がんばり続けてほしいです。

明日は個人懇談会です

明日の個人懇談では、学校での様子をお伝えするだけでなく、学校だけでは見えない子ども同士の関係やご家庭での会話の様子をお聞きすることで、今後の学習や友達関係、生活の仕方の見直しに繋げたいと考えています。お聞きしたことを基に、学期末までの２週間で対応したり経過観察を行ったりします。また学校からお話ししたことについては、ご家庭でも挑戦していただき、学期末にその成果を実感できるようにしたいと思います。なお、当日は養護教諭が在校しておりますので、気になることがありましたらご相談ください。１Ｆ掲示板には説明文「こまを楽しむ」の学習を終えた３年生が「いろいろな楽しい遊び」を紹介した文が掲示されています。これを使って１，２年生に遊び方を説明し、一緒に遊ぶのだそうです。本校の国語科学習の一環としてご覧ください。

なお、通知表は１学期の様子を振り返りながら終業式の後に担任から子ども達に直接渡します。

メディアでの教育活動の発信とメディアを活用した教育活動

「ふるさと子ども新聞」や「木場潟を見つめて」「モリアオガエルの卵塊観察」等の新聞記事で本校児童の活動が連続で紹介されました。入学式のＴＶ取材に始まり、今学期は多くのメディアで学校の活動を発信する機会を得、地域の皆様からいただく「みたよ」の言葉が、指導の励みになっています。記者のインタビューに、素直な思いを自分の言葉で話せる子ども達の姿にも、日ごろの学びの成果や成長も感じることができます。自分達が載っている新聞を広げ、記事の書き方や写真の使い方を学ぶ子ども達が、これからも言葉を大切にし、新聞や本などの文字から必要な情報を正しく読み取る力をつけてくれることを願っています。

コツコツがんばる子ども達

１年生が計算カードを手に「けいさん名人」を目指して検定を受けています。担任の先生には「２分以内に全問正解」で合格、教頭先生には「１分半で全問正解」で、そして「校長の５問」に正解すると「けいさん名人」に認定されます。教頭先生の前で緊張の面持ちで検定を受けている１年生も、校長室で「名人シール」を受け取るとニコニコになります。３か月前に入学した１年生ですが、「しつれいします。１年生の〇〇です。計算を聞いて下さい」と大きな声で校長室を訪問できるまでに成長しました。４年生はかけ算の九九の復習を兼ねた「九九検定」を受けに来ます。失敗しても何度も訪れてくる子ども達の「粘り」は拍手物です。

「作者の主張に対して私はこう考えます」６年生

「時計の時間」と「心の時間」

私たちは毎日、当たり前のように時間と付き合いながら生活をしています。身近な存在の「時間」ですが、「時計の時間」と「心の時間」という性質の違う２つの時間があり、それらと共に生きています。地球の動きをもとに定められ、だれが計っても同じように進む「時計の時間」に対して「心の時間」はさまざまな影響を受けて進み方が変わったり、人によって感覚がちがったりする特性があります。その特性を知っていると、計画を立てたり、他の人と互いに気遣いをしながら作業を進めたりすることができます。２つの時間と共に生活する私たちにとって必要なのは、「心の時間」を頭に入れ「時計の時間」を道具として使うという、「時間」と付き合うちえなのです。

授業デモンストレーションで「目指す授業」を示してくれた６年生は、その具現化を目指し、笑顔の中にも真剣に学び合う姿を見せてくれました。「相談後の全員挙手」の場面が何度もあり、その意識の高さには、さすが６年生！と感心しました。教材文「時計の時間と心の時間」の学習を通し、作者の主張を理解した６年生は、それに対してどう思うか整理し、意見文を書き、友だちと交流しました。単に自分の主張をするのではなく主張を支えるための事例について、数や内容、順番を吟味したり筆者の技法を学んだりと高学年ならではの学びをしていました。

本に親しもう～お話宅配便～

３日、お話宅配便の皆さんが絵本の読み聞かせや紙芝居、ブックトークをしてくださいました。７月３日の満月「バックムーン」にちなんだ夏の夜空の話を聞いたり、深海の話を聞きながら本物のサンゴを触らせてもらったりしました。何と３，４年生に紹介された本は全部で３０冊。子ども達それぞれに関心のある本は違うけれども写真や絵、お話からイメージがどんどん膨らんでいきました。

今月から図書ボランティアとして元谷□□さんが加わってくださることになりました。これから迎える夏休みの自由な時間を利用し、子ども達がより本に親しんでくれることを願っています。